

第2号  
平成21年3月

# ちばがく

放送大学千葉学習センター  
THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN CHIBA STUDY CENTER



平成20年度 学生表彰



平成20年度 学生表彰



平成20年度 学生表彰



平成20年度 学生表彰

The more I learn, the more I realize I don't know.  
The more I realize I don't know, the more I want to learn.

*Albert Einstein: 1879-1955*



宮崎 清

放送大学特任教授・千葉学習センター所長  
千葉大学名誉教授・特任教授・グランドフェロー  
中国四川大学・江南大学名誉教授 台湾実践大学客員教授  
千葉市民学会会長 NPO観光立県支援フォーラム会長  
昭和18年1月 山梨県生まれ 工学博士(東京大学)  
前:千葉大学理事・副学長・地域観光創造センター長  
千葉大学大学院工学研究科教授 日本デザイン学会会長  
著書:『藁』 法政大学出版局  
『図説・藁の文化』 法政大学出版局  
『デザイン事典』 朝倉書店 その他  
受賞:日本デザイン学会賞 日本デザイン学会特賞  
通商産業大臣賞 EXEMPLA最高栄誉賞 その他

平成21年度入学者の皆様、ご入学おめでとうございます。

放送大学千葉学習センターは年代・職業・地域を問わずさまざまな方々が集い、学生と学生、学生と教職員とが学習やサークル活動などを通じて日ごろから触れ合える場です。

私は、千葉学習センターに通われてこられる多くの方々から、「なりたかった自分になるのに遅すぎることはない」という不動の真実を、教えられています。

大学の主人公は、学生たち諸氏です。放送大学千葉学習センターは、ここに通われてこられる方々のさまざまな願いを実現できる場でありたいと願っています。学習プログラムにしても、サークル活動にしても、学生諸氏のさまざまな要請に応えられるものでありたいと、私は、考えています。

放送大学千葉学習センターの主人公として、皆様の日々の研鑽とご活躍を期待しております。

新年度を迎え、これまでの千葉学習センターと様相が変わった点がありますので、ご紹介します。

### 2階の図書室を学生諸氏の集いの場に模様替えしました。

これまで2階にあった図書室が放送大学図書館に併合されたことに伴い、テーブル・椅子などを新調して、学生諸氏の自習や集いの場としてお使いいただけるようにしました。

### 授業等の成果品を掲出して千葉学習センターのキャンパスギャラリー化を進めています。

お気づきの方も多いかと思いますが、1階・2階の壁面を飾っているのは、昨年度面接授業「デザインの基礎」を受講された方々の作品です。いずれも力作ばかりです。千葉学習センターの空間を皆さんのさまざまな作品等で埋め尽くし、キャンパス・ギャラリー化を進めます。

なお、2階の学生諸氏の集いの場の壁面を飾っている大型作品は、大川良子氏(人間の探求専攻)が寄せてくださったものです。どうぞ、皆さんの作品をお寄せください。

### 「目安箱」を設けました。ご意見・ご質問などをお寄せください。

所長室前の廊下に、「目安箱」を新設しました。改善すべきとお気づきのこと、カリキュラムに関するご質問など、皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。この「目安箱」は、皆様のご意見をうかがって、より素晴らしい学びの場としての千葉学習センターづくりを進めていくためのものです。なお、「目安箱」の鍵は所長が所管し、各位のプライバシーは厳守いたします。

### 平成20年度卒業優秀学生を表彰いたしました。

千葉学習センターに籍を置いて平成20年度に卒業・修了された方々の卒業・修了式が挙行されました。全科卒業生217名、選科終了生983名、科目終了生1158名、修士全科修了生31名、修士選科終了生123名、修士科目終了生142名です。おめでとうございます。

また、3月18日に、全学の卒業・修了式に先立ち、5名の成績優勝者・功労者に表彰状と記念品をお贈りしました。本誌5～8ページに、寄せてくださったメッセージを掲載しました。

### 放送大学の組織替えに伴い、客員教員をお迎えすることになりました。

各センターに客員教員をお迎えする制度ができましたので、千葉学習センターでは、早速、5名の先生方を客員教員としてお迎えすることにしました。客員教員からは、皆様方の学習相談や当センターの運営等にご支援をいただけることになっています。本誌3ページをご覧ください。

## 平成21年度のスタッフを紹介します

所長 宮崎清

担当面接授業: デザインの基礎 地域観光創造論 日本の伝統工芸を考える 日本の意匠文化を考える

客員教授

宮野モモ子(平成21年4月1日着任)

千葉大学教育学部教授

専攻: 音楽学

担当面接授業: 音楽の楽しさ



客員教授

前田早苗(平成21年4月1日着任)

千葉大学普遍教育センター教授

専攻: 教育評価学



客員准教授

植田憲(平成21年4月1日着任)

千葉大学工学部准教授

専攻: デザイン学

担当面接授業: デザインの基礎



客員教授

加藤隆(平成21年5月1日着任)

千葉大学文学部教授

専攻: 宗教学

担当面接授業: 『新約聖書』から  
何を学ぶか



客員教授

山本忠(平成21年5月1日着任)

千葉大学名誉教授

専攻: 化学

担当面接授業: 有機化学の楽しさ



5名の客員教員は、週4時間ほど千葉学習センターにおいていただけることになっています。どなたも、それぞれのご専門分野を極めておいでです。学生諸氏の学習相談をご担当いただくとともに、千葉学習センターの運営などについてのご支援をいただけます。

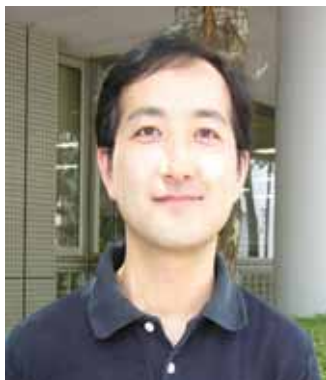
支援協力准教授

奈良由美子



支援協力准教授

二河成男



支援協力准教授

佐藤仁美

奈良由美子先生、佐藤仁美先生、二河成男先生は、4月1日より放送大学本部に籍が移りますが、これまで同様に千葉学習センターにおける学習相談などにご支援いただけます。

## 平成21年度のスタッフを紹介します

事務長 山下浩人



総務係長 庄司 章

教務係長 本郷弘子

事務職員 古門久子

山本直美

篠原時子

今野京子

山戸基弘

坂本香保

支援事務職員

長島富男



千葉学習センター主幹の長島富男さんは、4月1日より放送大学本部新設のコールセンターに籍が移りますが、当分の間、特に学務関係でのご支援をいただけることになっています。



私たちが、放送大学千葉学習センターにおける事務を担当いたします。

学生諸氏と千葉学習センターとの直接の接点です。

お問い合わせなど、どうぞ遠慮なく、事務窓口にお立ち寄りください。

一同、精一杯がんばります。

よろしく願いいたします。

## 平成20年度春季卒業優秀学生

平成20年度の全科卒業生217名のうち、各コースにおいて最も優れた成績を修められた次の4名に、センター長からの表彰状と記念品をお贈りしました。

人間の探求コース：林 信子氏      産業と技術コース：寺山昌史氏  
発達と教育コース：高橋祐美子氏      社会と経済コース：河面飛佳氏

## 平成20年度春季卒業優秀学生からのメッセージ

一青年からの「ひとりごと」

河面飛佳

'09年3月 社会と経済コース卒業



社会と経済に所属していた河面です。24歳の私が新入生の皆さんにアドバイスなどをすることはおこがましいと思いますが、一青年「ひとりごと」として、若者からみた放送大学、およびこれからの歩みについて述べたいと思います。

私は、法律関係に興味があり、4年間専修学校（法律専門学校）で学んでいました。ただ、専門科目をひたすら学ぶだけではなく、それ以外の教養科目等を学び、それを血肉化することが必要だと考え、専修学校入学と同時に本学にも入学しました。

勉強スタイルは、放送授業で分からないことがあれば、講師の方に質問状を提出し、また、大学図書館にある視聴コーナーを利用し、何回か視聴することなどをしてきました。その結果、何とか4年間で卒業することができました。（関心があると思いますが、単位認定試験の私なりの学習法として、ノートは取らず、必要なことはテキストに書き込んでいました。また、科目によってはテキストなどを持ち込むこともできるので通信課題などを貼り付けることなどもしていました。

さらに、試験前には、履修科目の内容が似ているのであれば、閉講科目で試験問題が公表されている科目の問題を解くなどしていました。これら以外にも、インターネットでは、各科目の問題傾向を掲載しているサイトもあります。利用してみてもいいでしょうか。）

私は、本学の良いところは主に3点あると考えます。1つ目はどの年代の人びとも等しく受け入れてくれる点、2つ目は進学や生涯学習など、さまざまな目的を持った学生が集うところだということ、3つ目に各分野において最先端で活躍なさっている先生方の講義を放送授業や面接授業を通じて学ぶことができるという点です。これらの点は、他の大学にはない本学の特長なのではないでしょうか。つまり、4年制の大学は、私みたいな若者が主な学生であり、その目的も進学や就職などに限られているといえます。一方、本学は、幅広い年代の方が学生として学び、各分野の第一人者の先生方が講義をしてくださるなど、他大学にはない特長があるといえます。むしろ、上記のメリットは今後さらに重要になっていくのではないかと考えられます。というのも、最近の状況では、幅広い年代の方が容易に学ぶことができる機会は少なくなっているといえるからです。大学では、夜間に当たる2部が次々と廃止されているのが現状です。そのなかで、本学のようなスタイルは、「学びたい」「知りたい」など「知の探求」をしたいと考えている学生にとって「ありがたい」大学だといえます。私自身は、面接授業などを通じ、先生方やさまざまなバックグラウンドを持った方々と議論するなかで、新たな視点に気付き、議論を深めることができました。また、学生同士で生活のこと、仕事のことなど勉強以外の話からも得るものがありました。このように、若者（私だけかもしれませんが）にとって、さまざまな目的を持った幅広い年代の方と切磋琢磨することができる環境が整っていることは、自らの教養を高めるうえで非常に有意義であると思います。

4年間はあっという間に過ぎた感じです。

もっと面接授業などを履修し、議論することができなかつたのが心残りです。

今は、法曹人の一員となるべく、法科大学院で学んでいます。そして、できれば市民の日常生活上の法律問題（家事・労働・行政事件など）について広く扱い、ときには、消費社会からくる「負の側面」環境問題や労働問題等 について、社会に問題を「提起」できる弁護士になれればと思います。

この4年間、本学で培った物事の視点などの見方を活かせるよう、これからも精進していきたいと考えています。

私の拙い文章を読んでいただき、ありがとうございました。

放送大学に学んで考えること

寺山昌史

'09年3月 産業と技術コース卒業



元来、私は目的のためにこつこつと積み上げていくのは苦手で、きわめて無計画な人間です。だから、その時々で興味を持ったこと、やりたいと思ったことをやってきました。それはそれで面白かったと思っています。

そして、50歳を過ぎ、会社で30年、会社勤めはもういいかなと、海外シニボランティアとか、ハードウェアによるAI等を研究してみたいなとか、いろいろなことを考えたのですが、どれもこれも大卒という資格が必要でした。会社ではあまり学歴を意識することもなく、困ることもなかったのですが、50歳を過ぎて学歴かというのが実感でした。それではと、まず大学に行こうと考えました。普通の大学、夜間と検討し、実際に受験もしましたが、実際に会社を辞めて4年制大学に行くというのは無理とリスクが多く、最終的に放送大学にしました。

放送大学は、費用の面、時間の面で比較にならないほどリーズナブルで、なおかつ会社に在籍しながら学士の資格を取れることが魅力的でした。もちろん専門的で体系的な部分には限界はありますが、まずは資格をと、それは割り切りました。資格を取ってから次を考えることにしました。

今、卒業が決まって、振り返って見ると、放送大学という選択肢があったことは、私にとっては大きかったと思います。

感覚的には垂直的に石組みを積み上げるように、全てを下から順に、ひとつの欠けもなく積み上げなければならない閉塞感から開放され、2次元的なネット状の選択肢と可能性を放送大学は秘めているような気がします。

私の経験で言えば、後でやろうと考えたことでできたことは少なかったと思います。やりたいことがあったら即実行というのが私の信条であり、実際そうしてきました。だから、50歳になって大学で学ぶことは、その結果であり、それを可能にしてくれたのが放送大学でした。

いつでもどこでも大学にいけるという選択肢は、学ぶというプロセスの大きなセーフティネットだと考えています。そのような観点から、私は放送大学の存在価値を尊ぶとともに感謝をしております。

さて、実際の4年間の学習ですが、普通に仕事をして4年間で卒業するのは難しいと思いました。私の場合、現在の職務ですと帰宅するのが9時、食事等で10時を過ぎてしまいます。お酒を飲むこともあるし、仕事を持ち帰ることもあります。土日は面接授業、また本もいろいろ読みたいと考えると、勉強のための時間は多くは取れないというのが実情です。

私の場合は幸い入学した当時、定時に帰れる職務だったこともあり、取れる時に取っておこうということで、最初の2年で集中して単位を取得しました。その後は、前述のとおり勉強に割ける時間は限られてしまいました。その経験から、私は1年でも良いので勉強に集中する時期を作ることが、働きながら4年で卒業するコツだと思います。

放送大学の授業は興味を惹かれるものが多く、楽しむことができました。科目の選択は試験日が土日になるもののなかから選択しましたが、非常にバラエティのある科目を勉強できたと思います。また、面接授業では、より専門的な香りを体験することもできました。それぞれの専門の基礎を幅広く学ぶことができ、自分の知識のベースが広がったと思います。

今後の放送大学に期待するところは、現在のカリキュラムをベースに、どのように専門性を高め、体系化を図るかということです。また、放送大学では、外国からの方で日本での大卒資格の取得を目指している方もいましたが、やはり日本語という壁は厚く、選択できる科目は限られ、卒業要件を満たすのは大変なようでした。

できれば、外国の方のためにESLのような仕組みを学生のボランティアも活用して取り組み、日本の放送大学からグローバルな大学へとなって欲しいと思います。

最後に、教職員の皆様にご感謝するとともに、時間と空間を越える放送大学が持つ可能性を今後とも大いに活用し、多くの方がさまざまな学びを実現することを祈念いたします。

学ぶ姿勢の美しさを

林 信子

'09年3月 人間の探求コース卒業



新入生の皆様、このたびは放送大学へのご入学、おめでとうございます。在学生の皆様は卒業へ向けて、日々勉学に励まれていることと存じます。どうか、学習を楽しんでください。

私はこの3月、何とか卒業することができました。何とかと申しますのは、在学生の方ならば、大なり小なりお感じになるところもあるのではないのでしょうか。私だけかもしれませんが、大学なので勉強はしてあたりまえなのですが、これがなかなか。

今回は千葉学習センターより、「入学者の集い」へのメッセージをとのこと。在学中、決して優秀な学生とは思えなかった人間になぜ？ 娘の中学受験と重なり、今春の卒業は無理だと思っていた私に、卒業の朗報の喜びもつかの間、気分は一転重苦しいものに。元来、人付き合いの苦手な性格、不特定多数の方々への応援メッセージなど、想像しただけでも気絶しそうでした。

その後、正気を取り戻し入学当初を思い起こしてみました。

私が入学したのは、今から11年前、1歳児の母として、家事、育児、仕事に忙しい日々を送っていたころでした。

ですので、記憶もおぼろです。一昔前ですから。

高卒なので、成績証明書の発行依頼に10数年ぶりに卒業校を訪れました。驚いたのは、在学中手厚くご指導いただいた先生がいらしたこと。そして入学を喜んでくれたこと。

「何人かに渡したけど、続けてる子は少なくてね。あなたは卒業してほしいな。」今でも耳に残っています。進学校であったため、友人たちはすべて大学進学、貧しい家庭に育ち、高校の学費等はアルバイトでやりくりをしていた私は就職しましたが、大学で学びたいという気持ちはとても強く、それをわかってくれたの言葉だったと思います。

最初は科目履修生として2年、その後、卒業を目指し全科履修生として9年、これは知識を内面化させるために必要不可欠な時間だったのか、昨日できなかったことも今日はできる、日々成長する子どもと比較すると、大人の習得は時間がかかるものです。

しかし、社会人大学生というのは厳しいものです。日々の仕事を覚えこなすのに精一杯、学費の貯金も生活費に消え、でも学びたい、私向きの大学はないものかと思案していたところ、放送本学の存在を知りました。数年して入学の見通しが立ち、教材が届いた日は一人微笑んだことをよく覚えています。

忙しい毎日のなか、10分、15分の細切れの時間をつなぎ、どこへ行くときも教材は持ち歩いていました。放送授業の録画ビデオはテレビとくびっぴきのため、もっぱらアイロン台が机代わり。3度の転勤で、学習センターも茨城から千葉へ。転職も3度。そのため、単位認定試験も欠席することも度々。気がつけば子どもは中学生。

それでも続けられたのは、あの日の恩師の言葉と学習への思い、そして、面接授業でした。日程の都合がなかなかつかず、最低限の出席となってしまいましたが、放送授業とはまた別の感動がありました。

私は「人間の探求」専攻で、特に哲学に重点を置いて学びたかったのですが、出席された学生は年配の方も多く、発言にも深み、凄みを感じました。何となくではなく、長く真剣に大切に日々を生きてきた、そういった美しさを感じました。成長期にがむしゃらに摺り込む学習もあれば、生涯かけて極める学習もある。10年、20年後、自分もこうありたいと思いました。講師の先生方もとても熱心で、帰りは充実感でいっぱいでした。

このような体験談が参考になるかどうか。

学生の皆様には放送大学の学習を通して、知識のみならず、学ぶ姿勢の美しさを感じていただけたら、そう願います。

## 平成20年度優秀功労学生表彰

自然の理解コース全科履修生で大学院修士コースで学習を進めておいでの伊藤睦氏には、長らく同窓会長として、その立ち上げから運営まで、多大なご貢献を賜りましたので、センター長からの表彰状と記念品をお贈りしました。

## 平成20年度優秀功労学生からのメッセージ

### 私の放送大学での経験

伊藤睦

#### 自然の理解コース

停年退職と同時に放送大学に入った。生涯学習社会に最適の教育機関だと思ったからである。

入学に際しては、第3学年に編入学すること、最短の2年間で卒業することにした。理由としては通信教育を4年間やることは、意志薄弱な私は途中で挫折する恐れがあったので一気に卒業を目指すことにしたからである。

しかし、語学は卒業要件では免除であったが、英語を全部やることにした(当時英語 から英語 まで7科目あった)

まず「生活と福祉」を専攻し、興味があった健康生活の分野を重点に学習していた。ある時、知人から福祉のことを聞きたいと言われ、学習内容が偏っていたことに気づき、福祉に重点を移し、衣食住についてもバランスよく学習することにした。また、友人が身体障害者療護施設を始めることになり、社会福祉施設長を依頼されたので、放送大学と平行して、中央福祉学院の通信教育「社会福祉施設長資格認定講習課程」を受講し、社会福祉施設長の資格を取得した。やがて予定通り2年間で「生活と福祉」を卒業することができた。

さて、次は再入学して自分の好みに合った「人間の探究」を専攻しようとしていたところ、市の教育相談担当を依頼されたので、「発達と教育」に変更して、心理学やカウセリングを勉強した。そして、日本心理学会の認定心理士を習得した。やがて「発達と教育」も2年間で卒業することができた。

この間、英語を基礎から学習し、まず英検3級を受けた。中学生が大部分のなかで肩身のせまい思いをしながら受験し、合格した。翌年、英検準2級と2級に挑戦した。両方ともすれすれの成績で合格したが自信になった。

「生活と福祉」の卒業研究(当時必修)の時は論文を書くためにパソコンを習い、たどたどしい手つきでキーボードをたたいた。そして、「郷土の漬物史」を研究し、好運に恵まれて一級資料を発見し、Aの評価を得ることができた。

そして、念願の「人間の探究」に入学し、楽しみながら学習した。ところが油断もあって卒業までに6年かかってしまった。

現在「自然の理解」専攻に在籍中だが、なかなか進まないで足踏み状態である。

最初の卒業後すぐに同窓会に入会し、種々の活動を続ける間に、情が移って、放送大学が実感としてわが母校になり、学生や同窓生が同じ釜の飯を食った仲間だと思えるようになった。

特に記憶に残ったのは、91歳で卒業された有水チヨさん、同じく91歳で卒業された渡辺四郎氏と親しくしていただき勇気を得たこと。全専攻を卒業された方が続々と誕生していること。同窓会のなかから大学院の修了生が出現していること。同窓会連合会主催の卒業祝賀パーティーで他の学習センターの同窓生と協力して困難な運営を毎年成功させていること。これらの有志と旅行や親睦会を共にして友情を深めていること等である。

「大学の窓」のために当時の吉川学長を囲む座談会に出席し放映された良き思い出もある。同窓会活動のなかで丹保前学長や、石学長の人柄と、ハッスルぶりに接することもでき、人との出会いが貴重な財産になった。

今後も生涯にわたって放送大学を拠点に学習し、新入生の勧誘や、同窓会活動の推進にも力を注ぎたいと思っている。



放送大学千葉学習センターは、年代・職業・地域を問わずさまざまな方々が集い、学生と学生、学生と教職員とが学習やサークル活動などを通じて日ごろから触れ合える場です。



放送大学 千葉学習センター

〒261-8586 千葉市美浜区若葉2丁目11番地

TEL. 043(298)4367 FAX. 043(298)4386

HOME PAGE: <http://u-air.net/chiba/>